学 位 論 文 審 査 要 旨　公開審査日 2017 年 12 月 27 日(水)

報告番号：㊙・乙　第　　号	氏名：　岸田　功典

論文審査担当者	主査　教授　　印	副査　教授　　印
		副査　教授　　印

審査論文の題目：高齢者の入浴・洗浄回数と皮膚の状態に関する調査・研究

著　者：岸田功典、斎藤万寿吉、山﨑正視、長谷哲男、坪井良治

掲載誌：西日本皮膚科（2018 年掲載予定）

論文要旨：

【目的】病院患者の入浴の現状を明らかにすること。また、入浴頻度が皮膚の状態にどう影響するのかを入院患者を対象に検討すること。【方法】多摩・相模原地域の 67 病院の病棟責任者にアンケート調査を実施した。また、3 病院 7 病棟に入院している 41 名（男性 27 名、女性 14 名、年齢 60-89 歳）を対象に介入研究を行った。介入としては、各施設で実施している週 2 回の定時入浴に加えて、左下腿だけを入浴日以外の週 5 日バケツ内で足浴した。2 週間の介入前後で左右下腿の、①皮膚水分量、②皮膚水分蒸散量（TEWL: Trans Epidermal Water Loss）、③皮膚 pH、④皮膚表面の細菌数、⑤医師による臨床評価、を比較検討した。【結果】41 病院、105 病棟の責任者 105 名（主に看護師長）から回答を得た。入浴の回数は週 2 回が最多（55.2%）で、入浴回数を決めた根拠は「今までの慣例」「人員的な理由」が大多数を占めた。足浴介入の結果、2 週間後の皮膚水分量は週 7 回洗浄した左下腿（以下週 7 回洗浄群）において、伸側・屈側ともに週 2 回洗浄の右下腿よりも有意に多かった。TEWL は、伸側においては週 7 回洗浄群のほうが週 2 回群に比し有意に多かった。pH は、伸側、屈側のいずれでも週 7 回洗浄群が週 2 回洗浄群に比して中性域に近かった。細菌培養および医師による臨床評価では左右差は認められなかった。【結論】最も多くの施設で実施されている週 2 回の入浴（足浴を含む）と比較して、連日の足浴では皮膚の乾燥傾向が出始めることが示唆された。皮膚の乾燥状態を考えると、高齢者においては週 2-3 回までの入浴洗浄は妥当と考えられた。

審査過程：

１．本研究の新規性について適切に説明できた。
２．測定部位として下腿を選択した理由を説明できた。
３．測定した指標の意義について適切に説明できた。
４．測定を標準化する工夫について説明できた。
５．研究結果に対する基礎疾患の影響について説明できた。
６．一部の評価指標で得られた予想外の結果について適切に考察できた。
７．本研究の臨床上の示唆について述べられた。

価値判定：

医療施設等における高齢者の入浴頻度は、健康や皮膚衛生の観点から重要だが、現場の経験や人員的な都合により決定されている。本研究は、その現状を明らかにするとともに、連日の入浴が皮膚の乾燥傾向を招くことを示すもので、入浴頻度に関する科学的根拠の構築に資するものである。よって、学位論文としての価値を認める。